第４節　教育学部構内Ｊ－19・20区の発掘調査

１　調査目的および経過

本調査区は大学キャンパスの南西部にあたり、第２節で述べた教育学部構内Ｈ－19区調査地点の西約110ｍに位置する。吉田遺跡調査団の呼称する第Ｖ地区の西部に相当し、遺跡保存地区と約50ｍの距離にある(Fig.31, PL.24)。

昭和42年および昭和45年の調査では経済学部の西南隅から第１食堂の南にかけて弥生時代中期を上限とする自然河川が検出されている。また、教養部から経済学部の地域においては泥炭層が広がり湿地化していたことをうかがわせる。

本地区に教育学部美術科・技術科実習棟が新営されることになり、昭和56年11月18日から翌昭和57年１月６日まで調査を行なった。調査は既設の実習棟部分を除外した拡張によって影響を受ける約130㎡について実施した。

なお腐蝕土および構内造成時の置土は機械を使用して排除し、それより下部は分層発掘を行なった。

２　層序(Fig.32)

第１層：腐蝕土層
第２層：構内造成時の置土層
第３層：暗灰色砂質土層
　　(水田耕作土)
第４層：黄褐色粘質土層
　　(水田床土)
第５層：淡黄褐色粘質土層
第６層：灰褐色粘質土層
第７層：淡茶褐色粘質土層
第８層：黒色粘質土層
第９層：灰色粘質土層
第10層：砂礫層
第11層：暗灰色微砂土層
第12層：暗茶褐色粘質土層
第13層：茶褐色微砂土層
第14層：茶褐色微砂土層（第13にくらべ明るい）
第15層：砂礫層

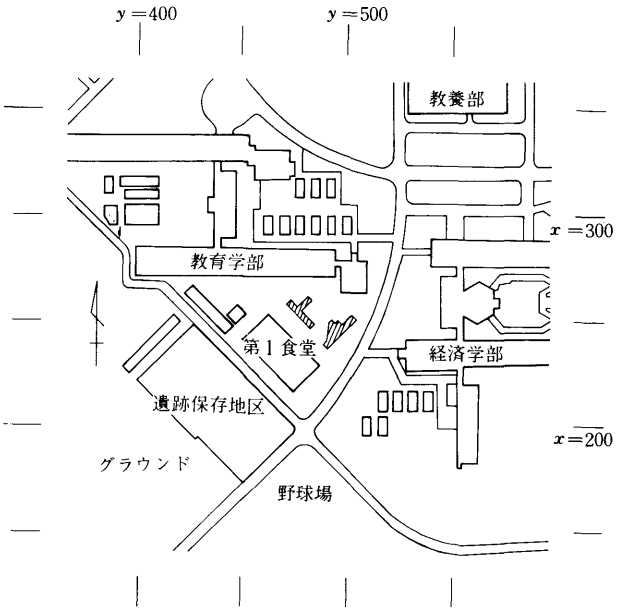


Fig. 31 調査区位置図(3600分の1)

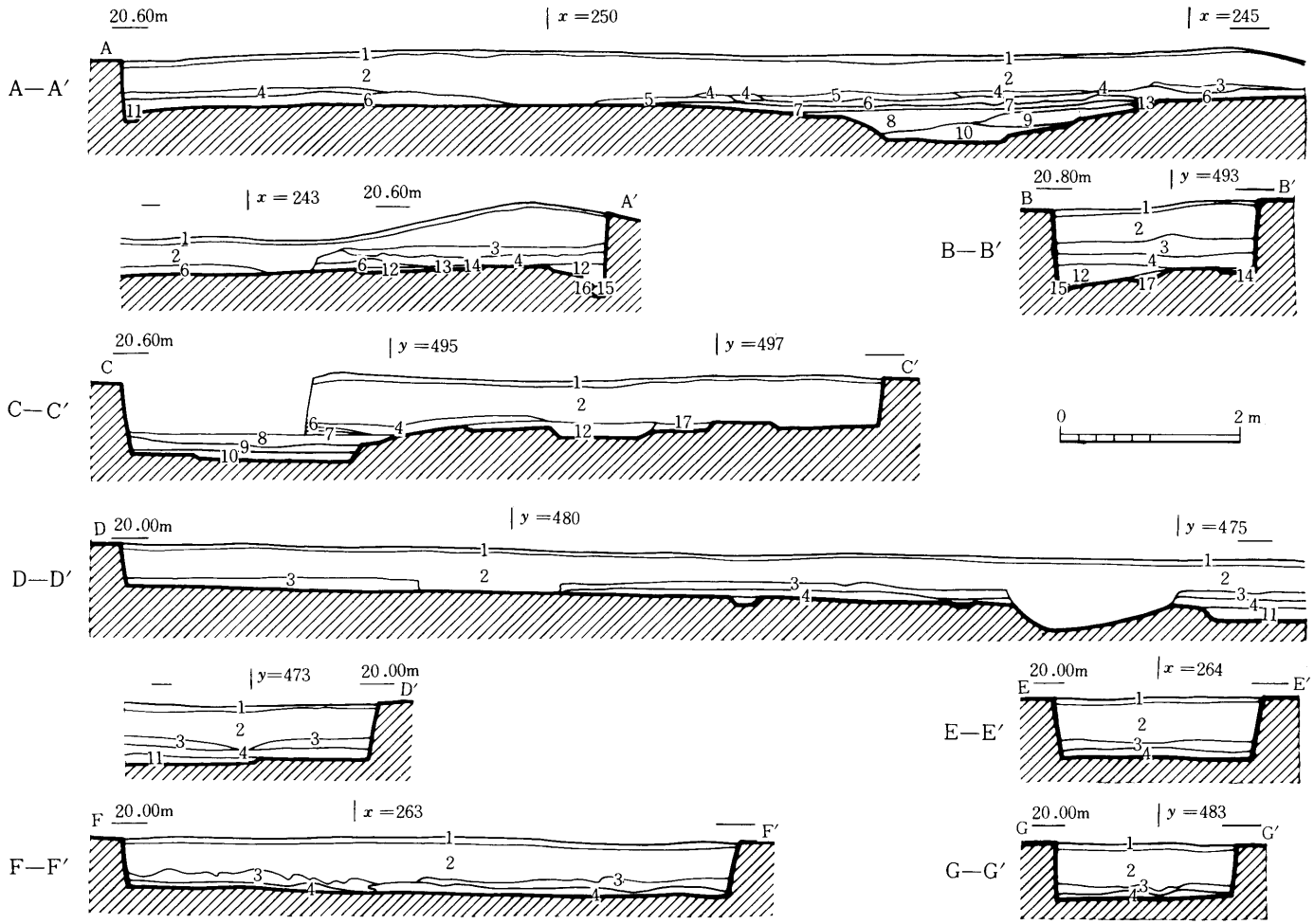


Fig. 32 土層断面図(1/80)

第16層：青灰色粘質土層

第17層：明茶褐色粘質土層（第12層にくらべしまり悪い）

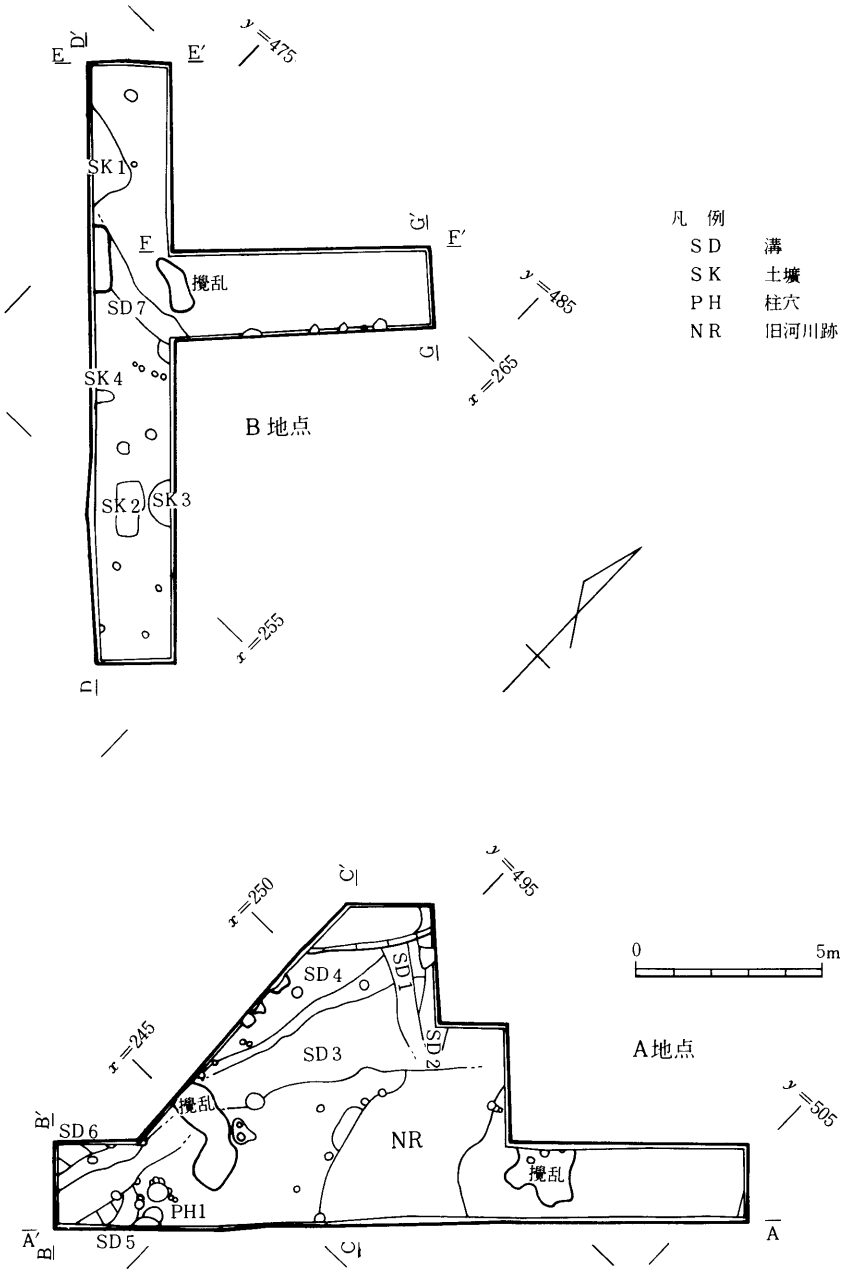


Fig. 33　遺構配置図(1/200)

現地表面の標高はＡ地点で約20.30ｍ、Ｂ地点で約19.80ｍで東から西に傾斜している。土層の堆積状態は両地点により若干の差異がみられ、Ａ地点では第３層は南部においてのみ観察され、第４層も普遍的にはみられないが両地点とも南部に厚く堆積している。黄褐色乃至青灰色粘質土の地山はおおむね第６層下部に存在し、遺構検出面の標高は19.70～19.95ｍで南部から北部へ傾斜している。東部においては第７層あるいは第２層直下に地山が存在する。

Ｂ地点では各層ともほぼ整合状態で堆積しており、おおむね第４層直下が地山で西部のみ第３層直下に地山が存在する。遺構検出面の標高は西部で19.50ｍ、東部で19.20ｍで西部から東部に向かって傾斜している。

3　遺構と遺物

Ａ地点では溝６条、旧河川跡、柱穴、Ｂ地点では溝１条、土壙４基、柱穴が確認された(Fig. 33, ＰＬ．24)。各遺構とも上面の削平が著しく遺存状態はあまり良好ではない。

以下、各遺構について述べる。

Ａ地点 (Fig.33, PL.25)

(1)　溝

溝１ (Fig. 33, PL. 26)

北隅で検出された溝で溝２・３・４を切っている。北西から南東方向に存在し幅50～60cm、深さ９cmの規模をもつ。断面形

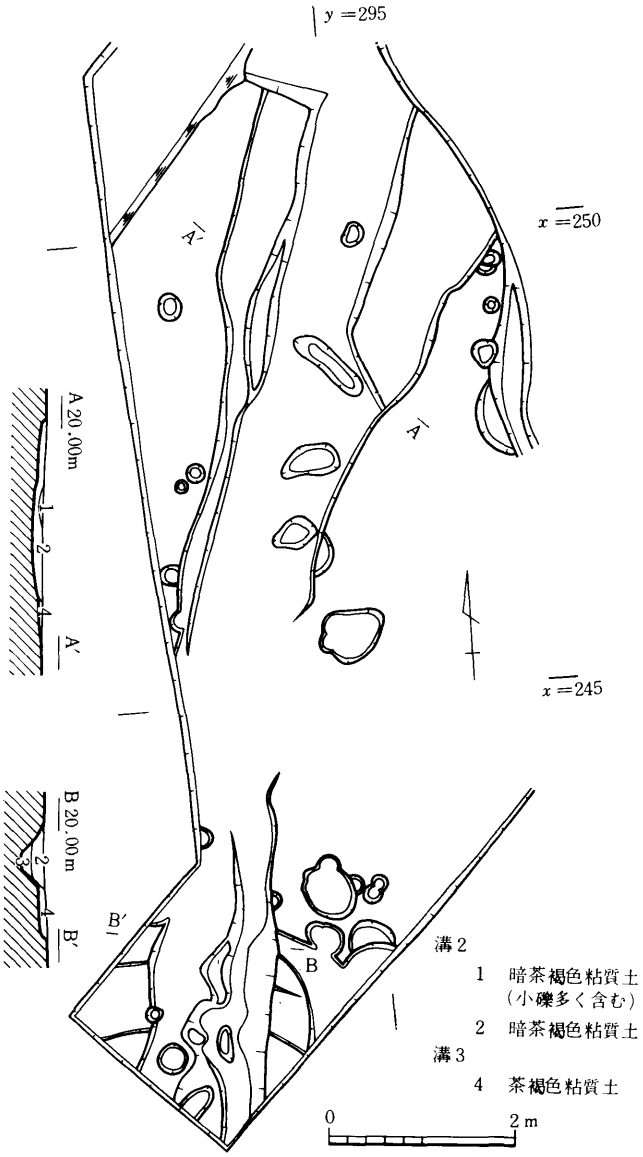


Fig. 34　溝３・４・５・６実測図(1/80)

態は逆梯形に近い。覆土は淡黄褐色微砂土で遺物は出土しなかった。

溝 2（Fig.33，PL.26）

溝1と同一方向に存在し、溝3・4を切っている。断面形態は逆梯形で幅約70cm、深さ約5cm。溝内に充塡した濁黄褐色微砂土からの出土遺物はなかった。

溝 3（Fig.34，PL.27～29）

南北方向に存在し、溝4を切っている。全体に削平が著しくx=245付近では流路を明確にとらえることができない。最大溝幅はx=250付近で230cm、最小溝幅はx=243付近で60cm、溝深はA－A′で18cm、B－B′で24cmの規模をもつ。溝深は北部においてはほぼ同一であるが南部では最南端で34cmを測り徐々に深くなっている。また、南部では溜り部を形成し、溝底に深さ10～15cmの砂礫が堆積しており、北部にくらべ溝底が下がる。

遺物は第2層から縄文式土器、および弥生式土器が（Fig.35，PL.40－(2)）、第3層から須恵器、土師器が出土した。図示しうるのは第2層出土の3点のみである。1はx=247.2、y=294.4付近で出土した壺の口縁部である。いわゆる「鋤先」状口縁をもち口縁部上面は平坦である。内部への突出は小さく、断面形態は三角形である。現存する破片では浮文等はみられない。内外面とも丁寧な横ナデにより仕上げている。胎土良好、濁黄褐色を呈し焼成は堅緻。口径40.4cm。2は胴部が「く」の字に内側に屈曲する甕の口縁部である。屈曲はさほど顕著ではない。磨滅著しいが外面に左上り、内面に右上りの刷毛目調整を施し、口縁端部よりやや下位に断面三角形の篦状工具によると思われる扁平な刻目突帯を貼りつけている。胎土に多量の石英粒、長石粒を含み、焼成は良好。外面黄褐色、内面黒色を呈す。3は壺の頸部から胴部。3条の篦描き沈線下に無軸羽状文を施す。外面は器面の荒れにより調整不明、内面はナデ仕上げ。石英粒を主とした砂粒を多量に含み、焼成は良好、濁黄褐色を呈す。

溝 4（Fig.34，PL.27～29）

流路は溝3と同一方向で溝3によって切られている。x=245付近は削平により失われて

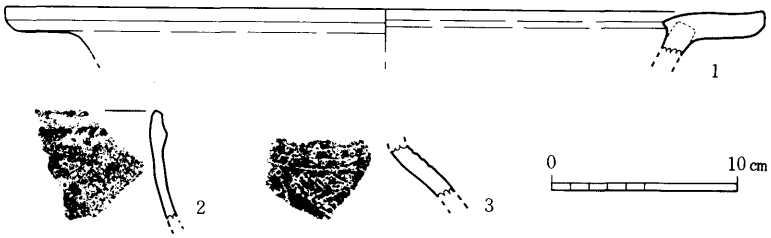


Fig.35 溝3出土遺物実測図（1/4）

いる。現存する溝深はＡ－Ａ′で６cm、Ｂ－Ｂ′で11cmである。溝内に充填した暗茶褐色粘質土から遺物は出土しなかった。

溝５（Fig.34, PL.30）

南西隅において検出された溝で東西方向に存在する。溝６を切り、溝４に切られている。断面形態は逆梯形に近く、幅約30～45cm、深さ約５cm残存するのみである。茶褐色微砂土の覆土からは遺物は出土しなかった。溝底標高は約19.90ｍである。

溝６（Fig.34, PL.30）

溝５によって切られており東西方向に存在する。幅50～75cm、深さ約４cmの規模をもち、断面形態は逆梯形に近い。溝内に充填した明茶褐色微砂土からの出土遺物は皆無であった。溝底標高は約19.92cm前後である。

(2)　旧河川跡（Fig.36, PL.31～32）

調査区中央部に位置し、南北方向の流路をもつ。溝３に切られており幅は2.70～3.90ｍ、深さは24～40cmで南に向かうにつれてやや幅が広がり深くなる。すなわち溝底標高はＡ－Ａ′で約19.60ｍ、南壁付近で19.30ｍであり溝底は北から南に向かって傾斜してい

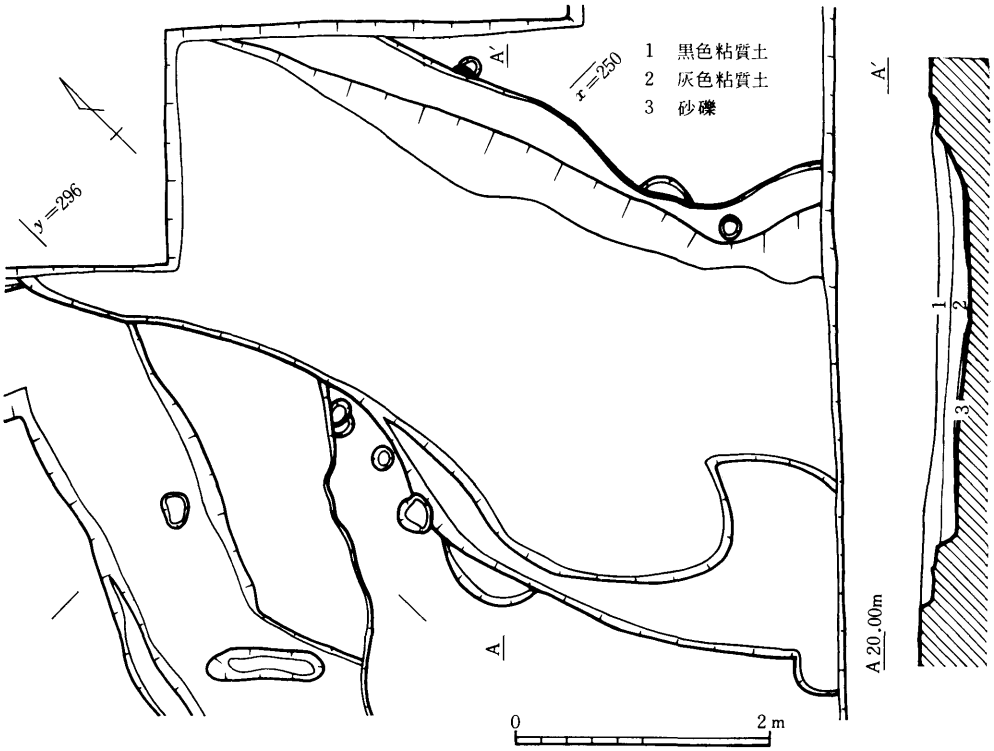


Fig. 36　旧河川跡実測図（1/60）

る。溝底には砂礫の堆積をみた。また、南部西壁付近では溜り部を確認した。覆土は3層に分層されるがいずれも遺物を包含する。最上層の黒色粘質土からは須恵器、土師器、弥生式土器、灰色粘質土からは土師器、弥生式土器、最下層の砂礫層からは弥生式土器が出土したが、図示しえたのは灰色粘質土よりの出土遺物のみである(Fig.37,PL.40—(3))。砂礫層は流木、木葉を含んでいた。1は壺の口縁部。内面3分の2を篦磨きし、その他はすべて横ナデにより仕上げる。焼成不良、胎土精良、濁黄褐色を呈す。口径18.9cm。2はやや上げ底の甕の底部。外面は底面ナデ、側面は丁寧なハケ目調整を施し、内面はナデ。胎土、焼成とも良好で外面赤褐色、内面褐色を呈する。3はいわゆる複合口縁壺で口縁端部を欠損する。短い頸部にほぼ直立する口縁部をもつ。内外面とも横ナデにより仕上げる。胎土不良、焼成良好、黄褐色を呈する。4・5は「く」の字に屈曲する甕の口縁部。4は張りの小さい胴部をもち、口縁部内外面横ナデ、他は刷毛目による調整を施す。胎土不良、焼成良好で内面褐色、外面黄褐色を呈する。5はやや屈曲の強い口縁部をもち、外面は横ナデで仕上げるが内面は不明。胎土、焼成とも良好で赤褐色を呈する。6は甕の胴部。刷毛目調整後の篦描きによる沈線が2条確認できる。内面はナデ仕上げ。胎土良好、焼成堅緻、黒褐色を呈する。

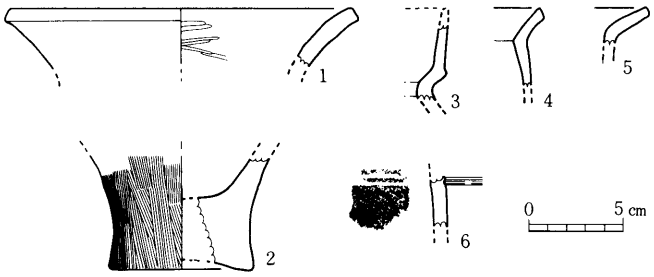


Fig. 37 旧河川跡出土遺物実測図(1/4)

(3) 柱穴

総数40個弱確認した。若干の平面的規模の差異は存在するが、顕著な削平によりいずれもも深さは5～10cm前後で柱穴掘削状態も十分に観察しえなかった。したがって、灰色微砂土、暗茶褐色粘質土、茶褐色微砂土に大別される各柱穴の覆土によって建物復原を試みたがかんばしい結果は得られなかった。

B地点(Fig.33, PL.33)

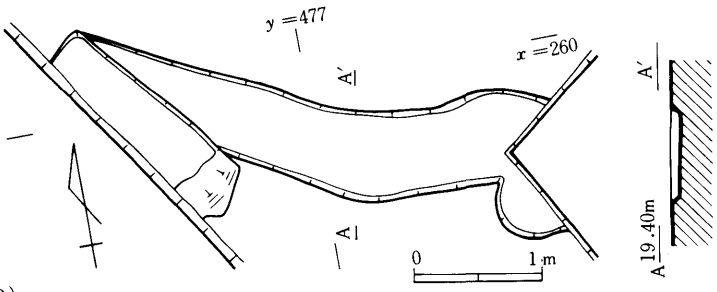


Fig. 38 溝7実測図(1/60)

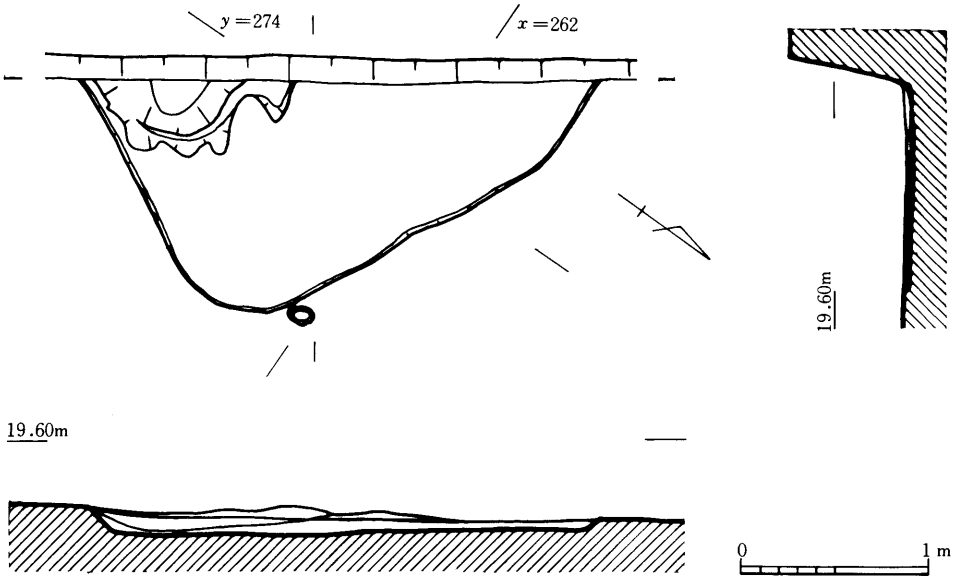


Fig. 39　1号土壙実測図(1/40)

(1)　溝

溝 7（Fig. 38, PL.34）

調査区中央部に位置しほぼ東西に存在する。西に続く部分は削平により消失している。幅62～70cm、深さ２～６cmの規模をもち溝底標高は東西両側とも 19.28 m である。覆土は灰色微砂土で遺物は出土しなかった。

(2)　土壙

１号土壙（Fig.39, PL.34）

調査地点の西部に位置する土壙で近接する自転車置場のために完掘に到っていない。深さは東側で６cm、西側で２

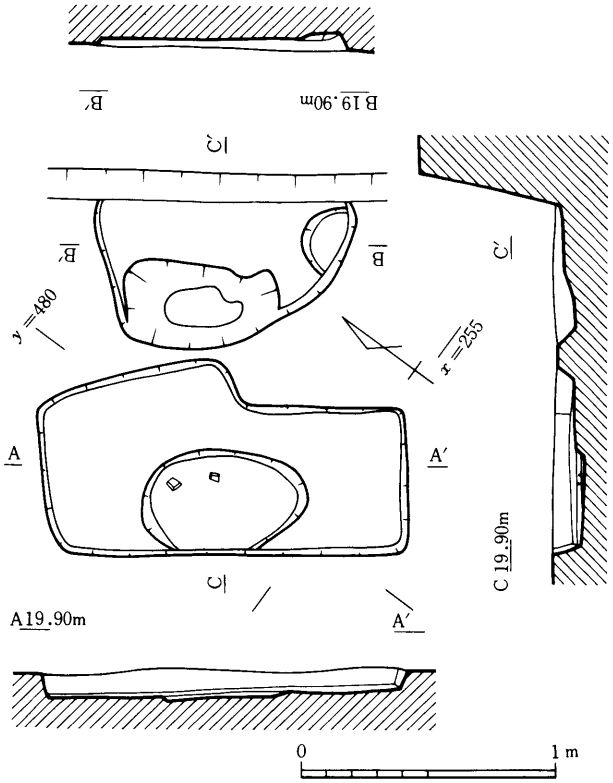


Fig.40　２・３号土壙実測図(1/30)

cmを測るのみである。東壁傍には深さ10cm前後の不整形な掘り込みが検出された。内部に充塡した灰色微砂土からの出土遺物はなかった。

2号土壙(Fig.40, PL.35)

調査区東部で検出された土壙である。平面形態は東辺の突出した長方形で南北軸143cm、東西軸73cm、深さ10cmの規模をもつ。床面は南から北へわずかに傾斜しており標高19.65mである。また、西側辺に接して南北64cm、東西39cm、床面からの深さ3cmの楕円形の掘り込みが確認された。壙内には黄色味をおびた茶褐色粘質土が充塡しており、弥生式土器2点が出土したが図示不可能であった。長軸方位はN－36°－W。

3号土壙(Fig.40, PL.35～36)

2号土壙の東傍に近接して営まれており、既設建築物が存在するため完掘していない。平面形態は円形乃至楕円形に近いものと思われ南北軸97cm、東西軸55cm以上である。床面は東から西に向かって傾斜しており、標高は約19.70mである。また、西部および南部に掘り込みが認められ、深さはそれぞれ4cm、2cmである。覆土は茶褐色粘質土で遺物は包含していなかった。

4号土壙(Fig.11, PL.36)

溝7の南に位置する土壙で調査区外に及ぶため完掘に到っていない。平面形態は東西に長い楕円形状になるものと思われ長軸121cm以上、短軸72cmの規模をもつ。壙深は最深部でも19cmを測るにすぎず、床面標高は19.95m前後である。灰色微砂土の充塡した壙内から遺物は出土しなかった。

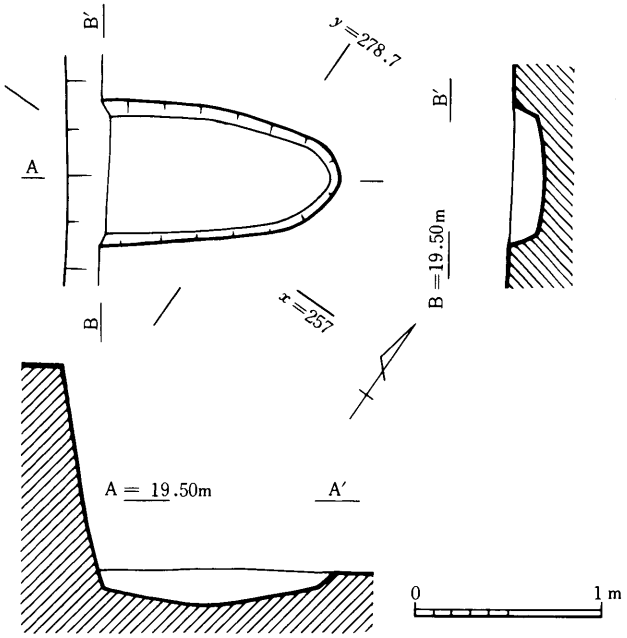


Fig.41 4号土壙実測図(1/40)

(3) 柱穴

14個検出した。各柱穴の覆土は灰色微砂土、茶褐色粘質土に大別される。$x=250$以南の四柱穴は茶褐色粘質土の覆土でいずれも上面径

25cm前後、深さ15cm前後の規模をもち住居跡の可能性が強い。

(4)　その他

第４層、第６層、第11層から遺物が出土している。第４層からは弥生式土器が出土した(Fig. 42)。壺の底部で磨滅著しく調整は不明。胎土、焼成とも良好で黄褐色を呈する。第６層からは瓦器擂鉢片が出土したが図示できなかった。　第11層からは土師器小皿が出土した。底部の破片で底径４.0cm。磨滅著しく調整不明であるが、糸切りの痕跡は観察される。胎土、焼成とも良好で黄褐色を呈する。また、ＰＨ１より黒曜石の剝片が出土している。

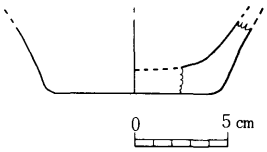


Fig. 42　第３層出土遺物
実測図（1/4）

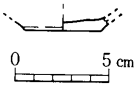
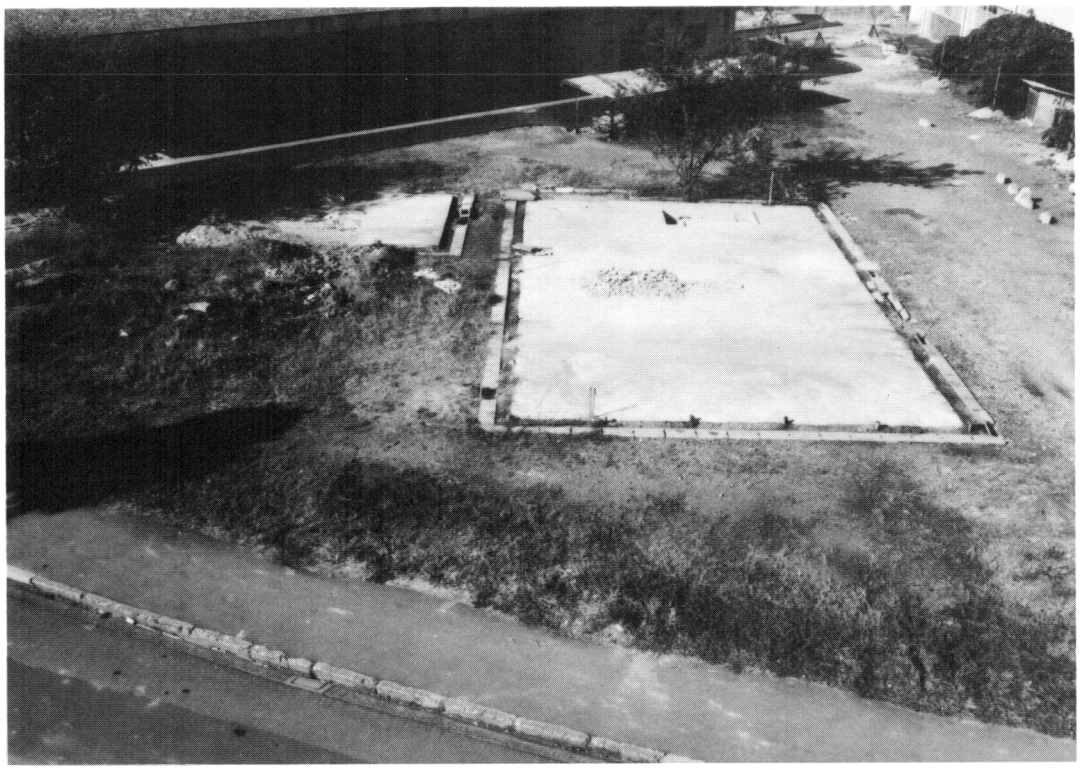


Fig. 43　第11層出土遺物
実測図（1/4）

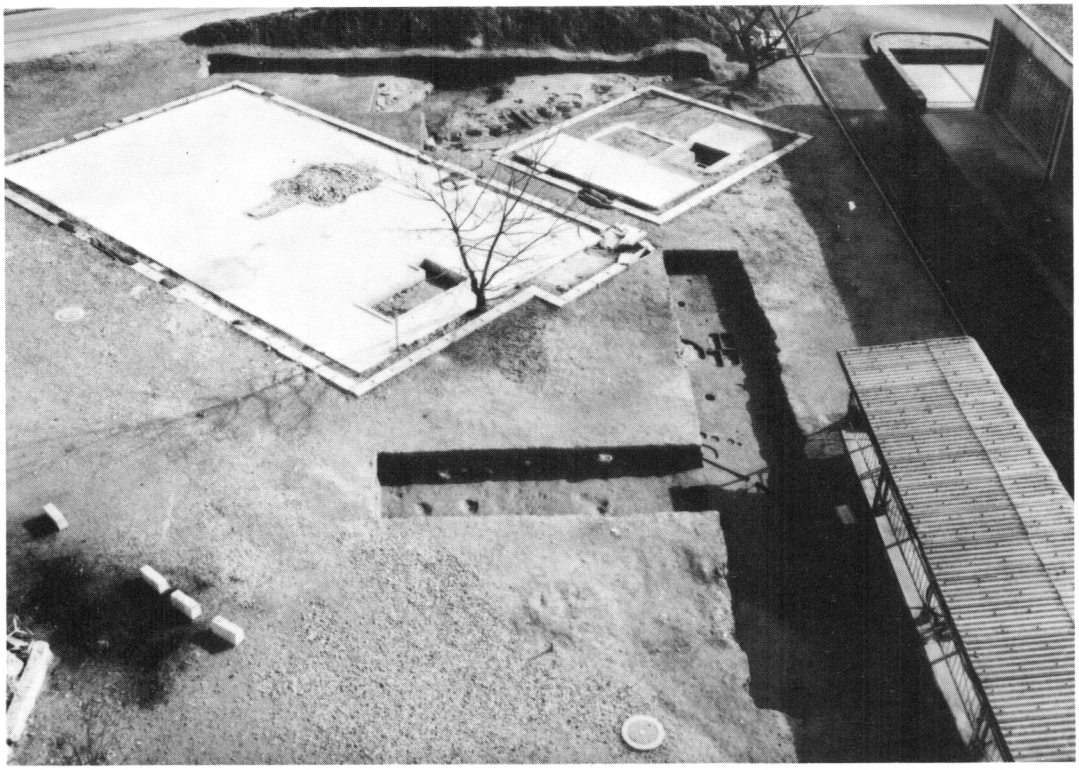
４　小結

本調査区では既設建築物による調査面積の制約を受けつつも溝７条、土壙４基、旧河川跡１条、柱穴を検出した。溝１・２は遺物が出土しておらず時期比定は困難であるが従来までの構内各地区における調査の所見からみると近世に下がる可能性が強い。溝３は南部において溝幅を減じ、強い流水によって側壁および底面が抉られたような凹みを形成し砂礫が堆積している。また、少なからず常に流水があり溝内堆積土の反転、再堆積が起きたためか出土遺物の時期的逆転、混在が認められる。第２層において縄文時代晩期夜臼式の比較的新しい時期の甕が出土しており、溝の上限を捉えることができる。さらに溝３に切られて平走する溝４は再掘削によって溝３として機能した可能性も考えられるが、上面を削平されており遺物も出土していない為積極的な論拠は得られない。溝５・６についても覆土による切り合い関係のみの相対的新旧関係をとらえうるのみで溝４が掘削された段階ですでに廃絶したものと思われる。また、旧河川跡は溝底レベルでみる限り北から南へ流路を持っていたようであり溝３および溝４と相関関係が認められるようである。本調査区の南西、第１食堂南部の調査でも溝３、４の延長部を検出しており流路を南に向け規模を拡大しつつさらに南西に続くようである。なお、Ｂ地点で検出された２号土壙は規模、形態等から推して土壙墓の可能性があるが粘土、炭化物等は認められなかった。

以上概括的に述べたように本調査区では溝、河川が主体を占め明確な住居跡は検出されなかった。しかし、溝、河川の管理、運営とあわせて縄文時代晩期に遡る資料が得られ、特にＩ－20区に埋存する集落の立地、規模、時間的推移を知るうえで貴重な問題提起となった。



(1) 調査前全景（南東から）



(2) 調査区全景（北から）

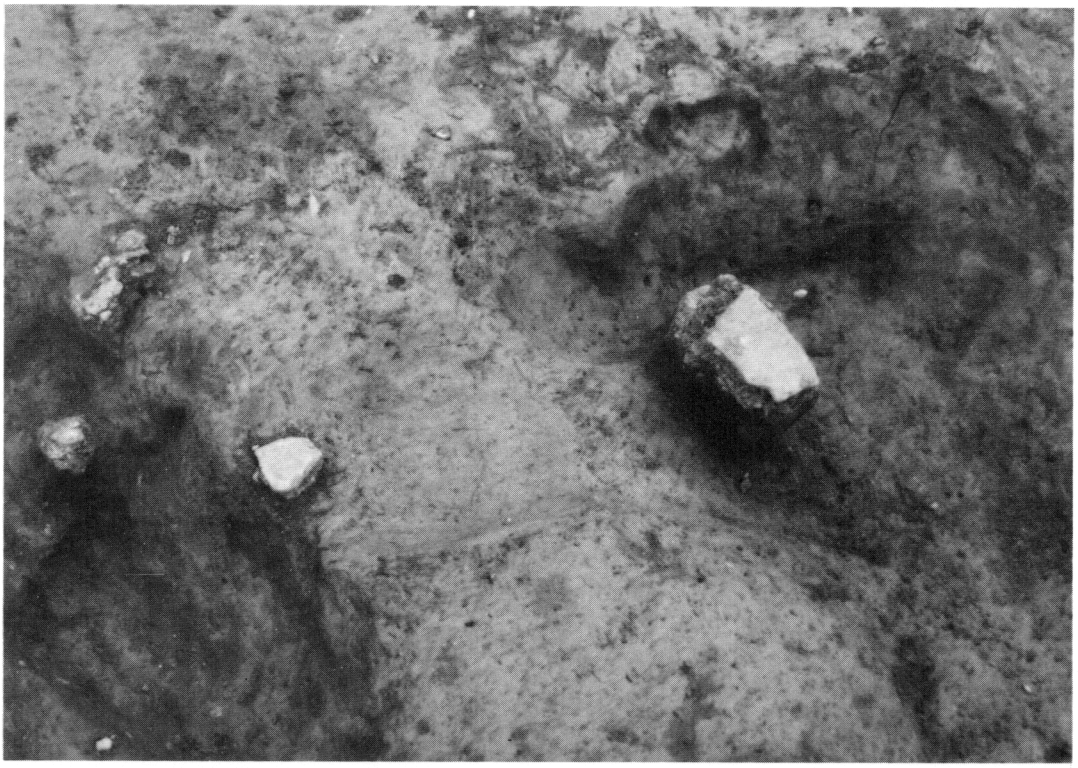
(1)　A地点遺構検出状況（北東から）

(2)　A地点全景（北東から）

(1)　A地点溝1・2検出状況（北から）

(2)　A地点溝1・2（北から）

(1)　A地点溝3・4検出状況（東から）



(2)　A地点溝3遺物出土状況（西から）

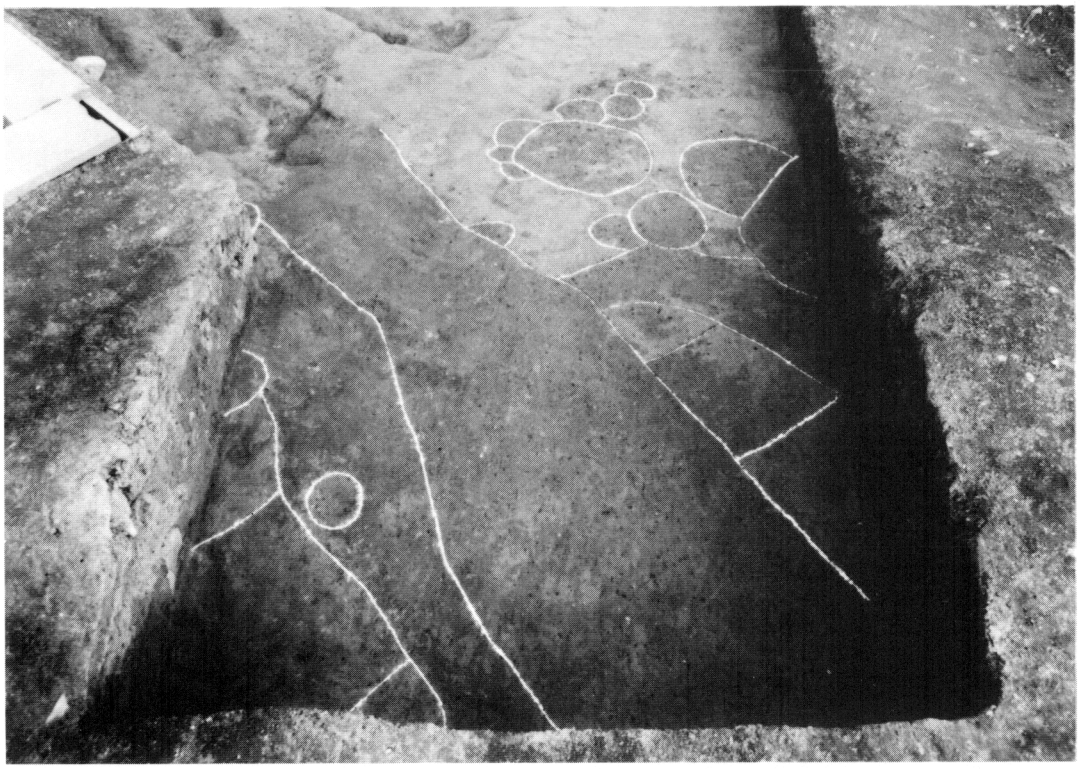
教育学部構内J—19・20区

(1)　A地点溝3（東から）

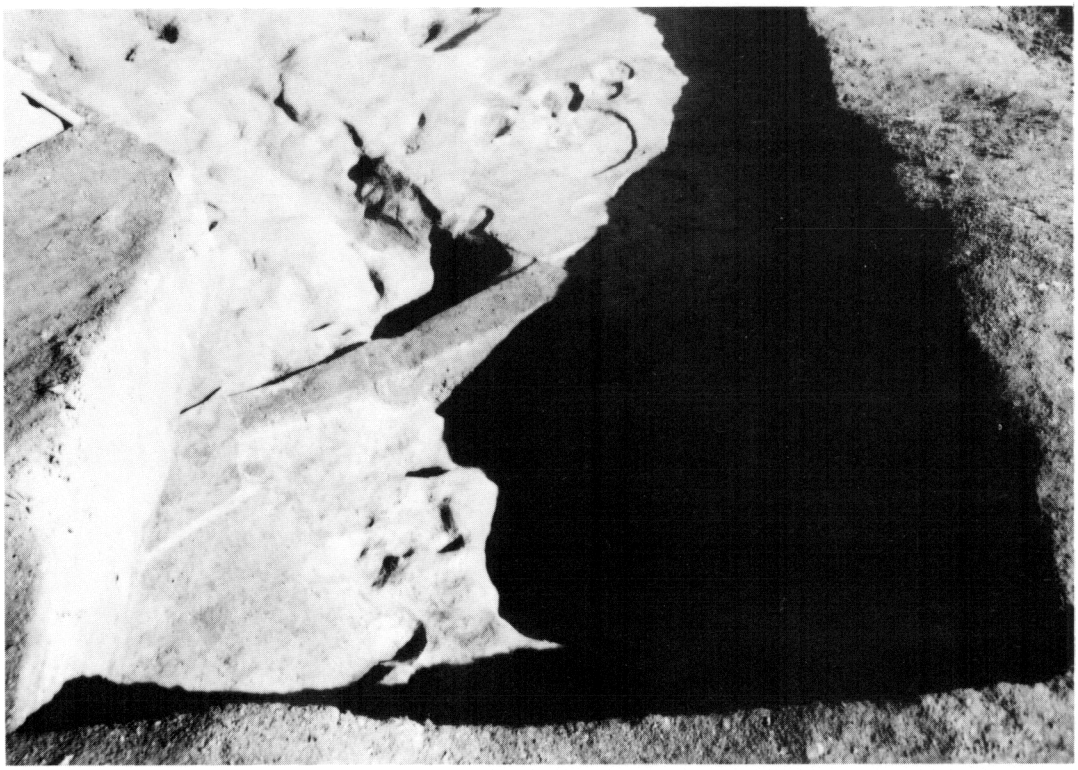
(2)　A地点溝3・4（東から）

(1)　A地点溝3・4埋土土層断面（東から）

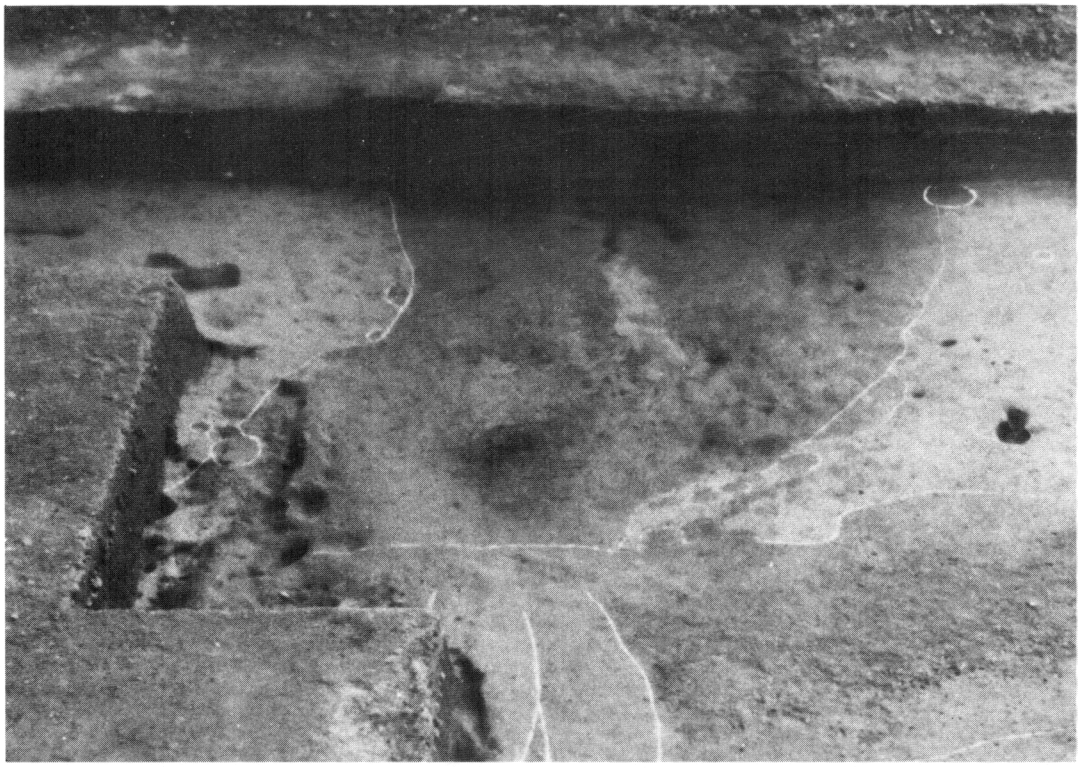
(2)　A地点溝3・4埋土土層断面（東から）



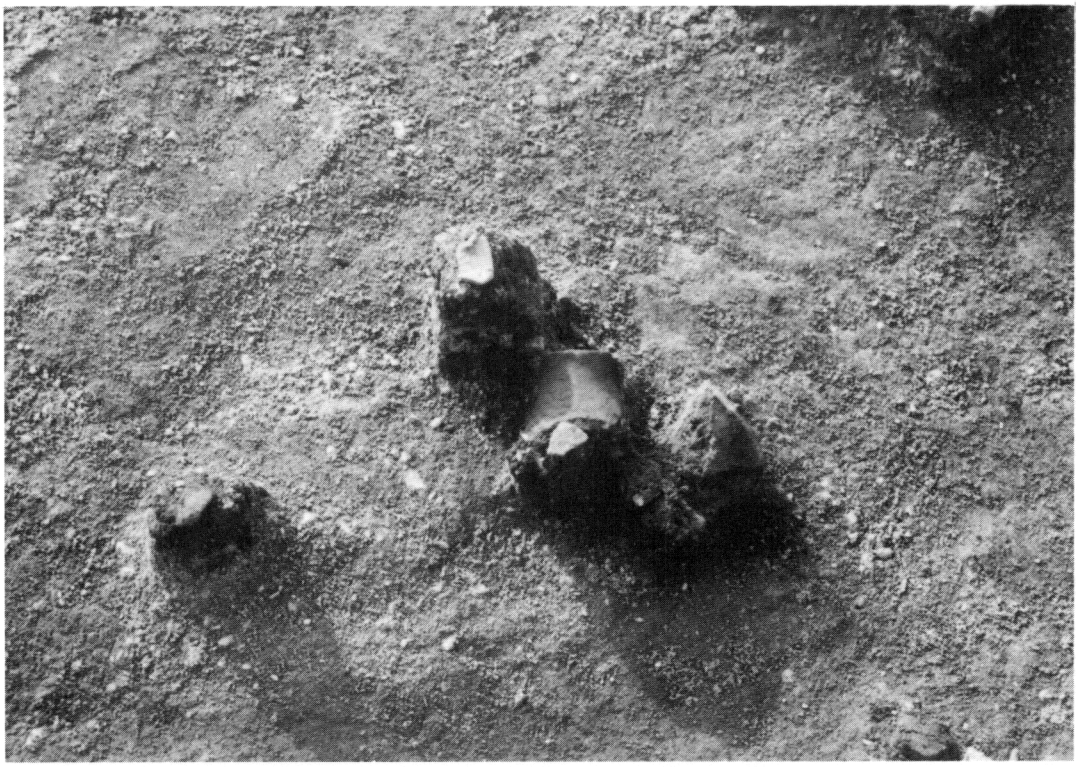
(1)　A地点溝5・6検出状況（西から）



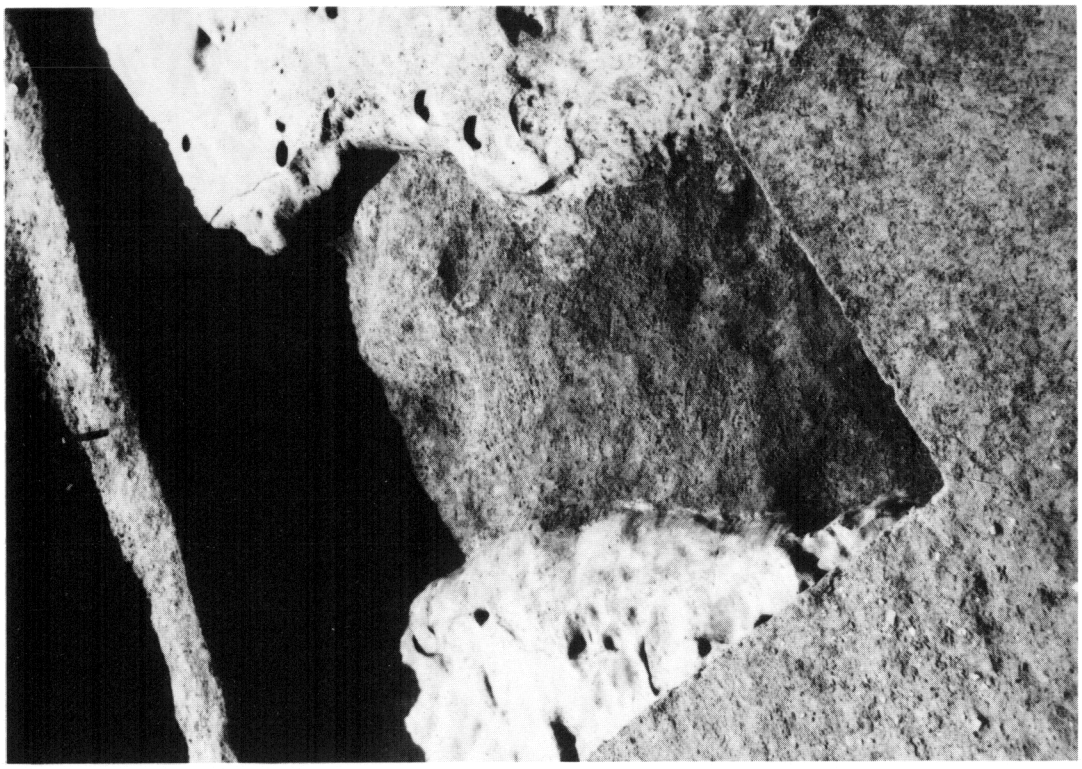
(2)　A地点溝5・6（西から）



(1)　A地点旧河川跡検出状況（北から）



(2)　A地点旧河川跡遺物出土状況（北から）

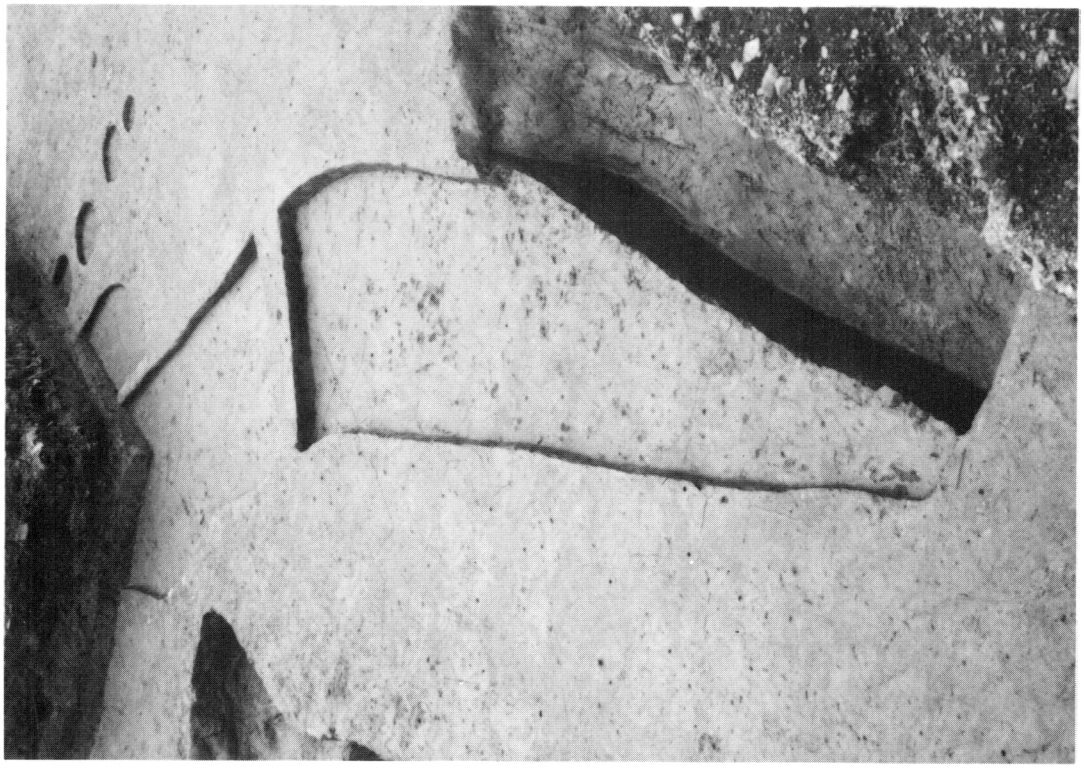


(1)　A地点旧河川跡（北から）

(2)　A地点旧河川跡埋土土層断面（北から）

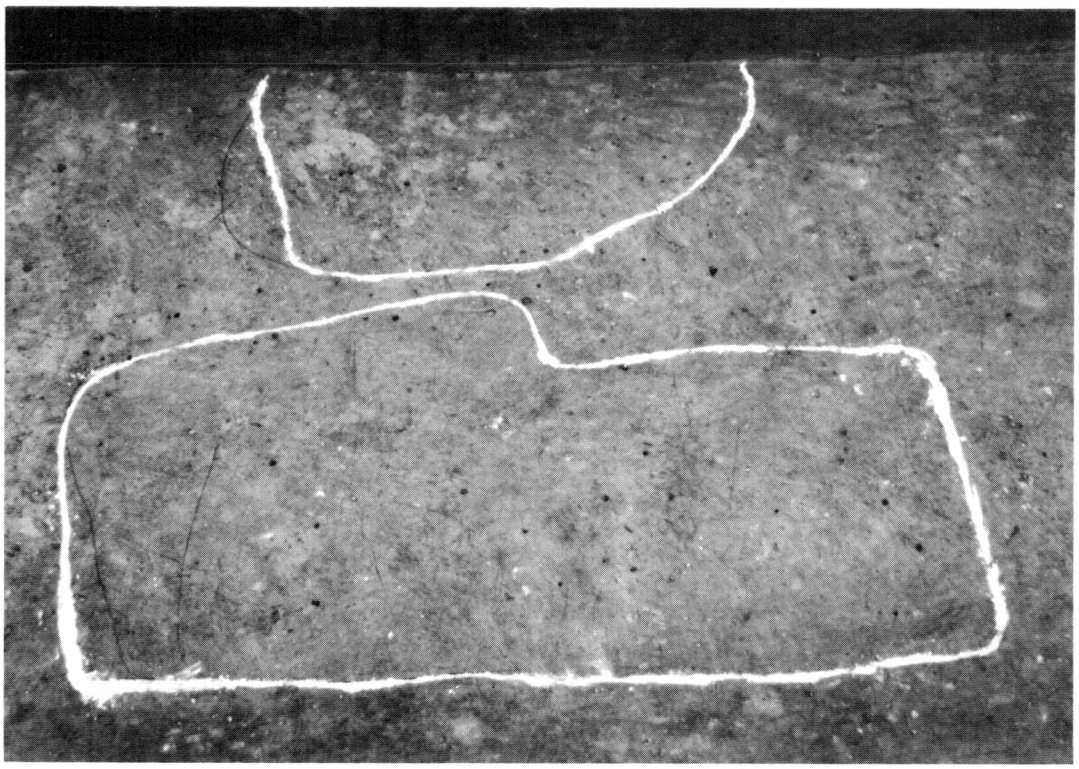
(1)　B地点遺構検出状況（北から）

(2)　B地点全景（北から）

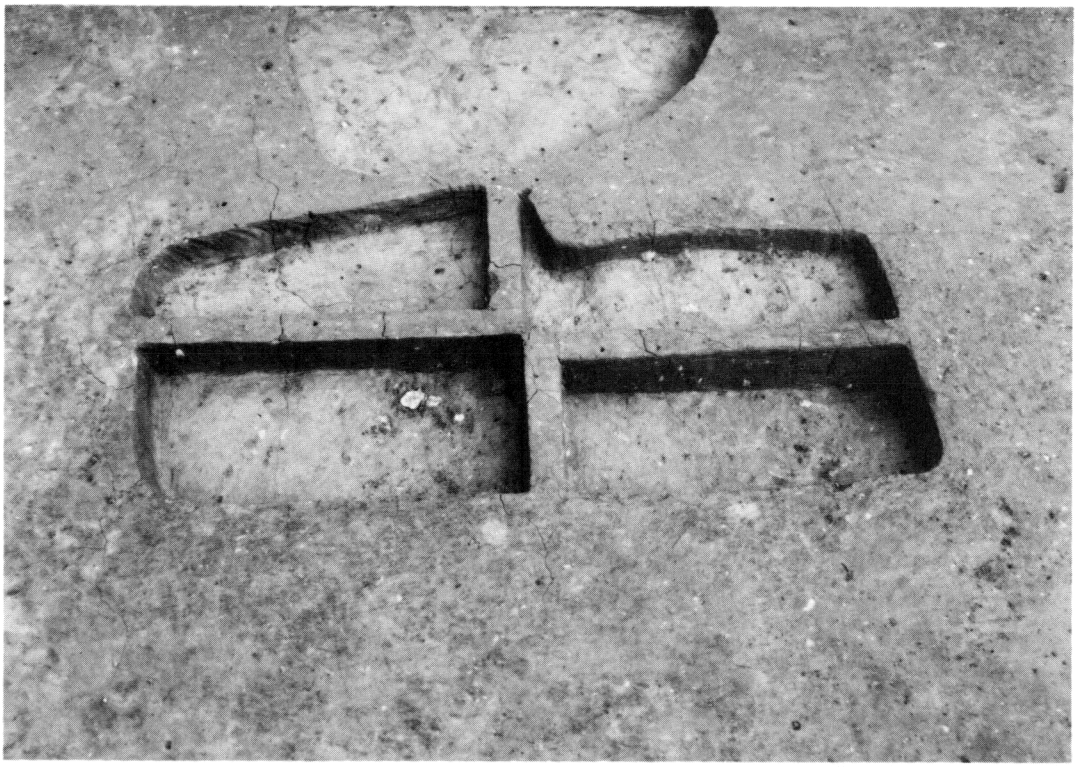


(1)　B地点溝7（北西から）

(2)　B地点1号土壙（東から）

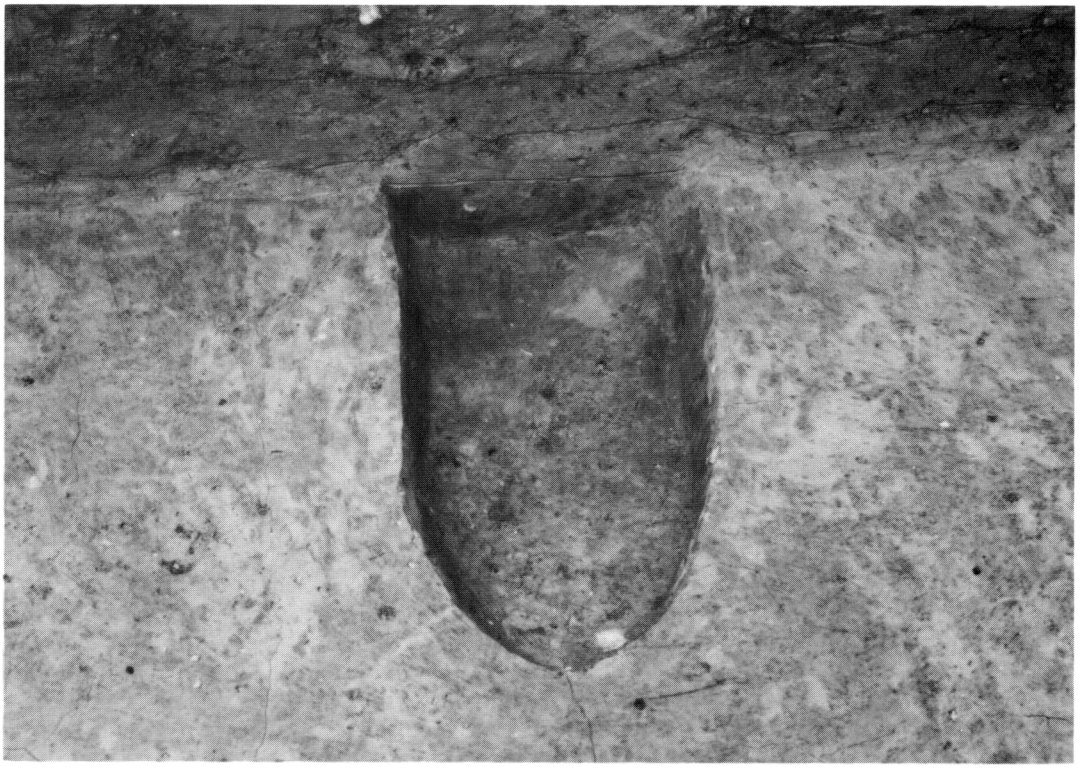


(1)　B地点2・3号土壙検出状況（西から）

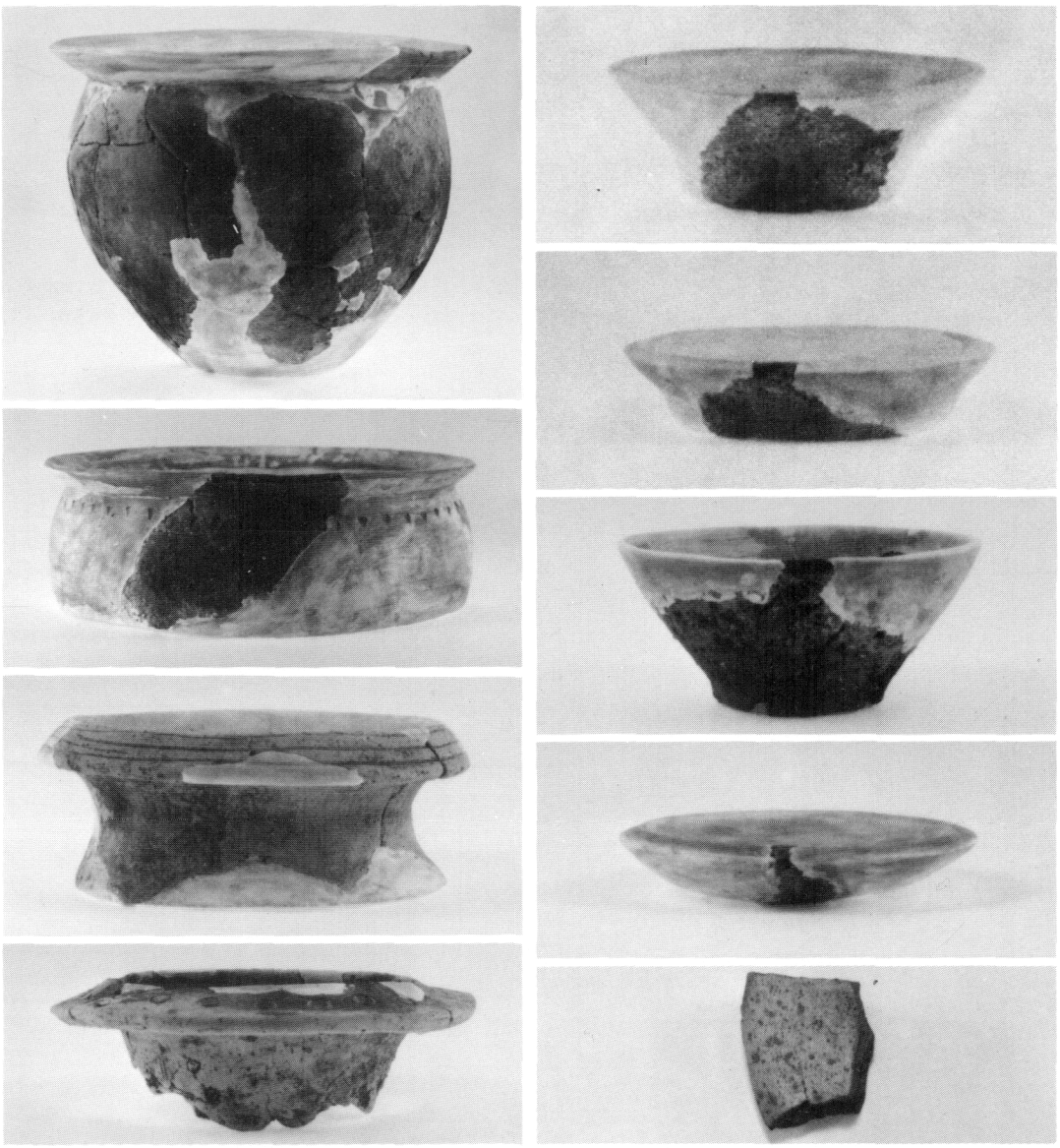


(2)　B地点2号土壙（西から）

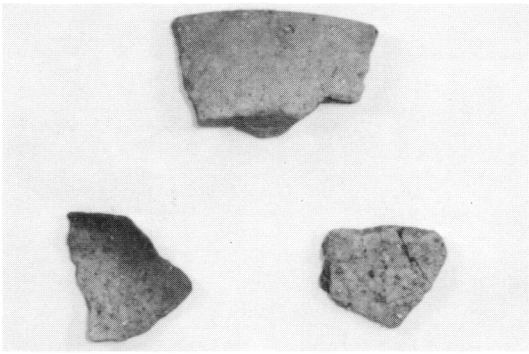
(1)　B地点3号土壙（西から）



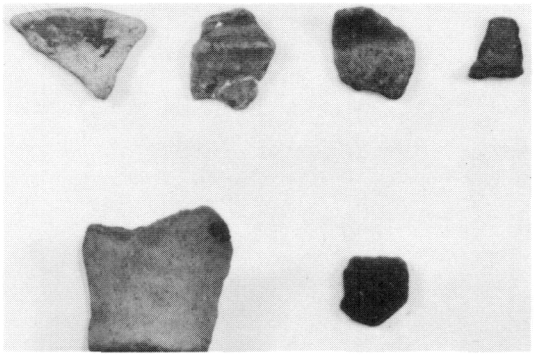
(2)　B地点4号土壙（東から）



(1)　H－19区溝 5 出土遺物



(2)　J －19・20区溝 3 出土遺物



(3)　J －19・20区旧河川跡出土遺物